

はまぼうふう vol.11 2003.12.10.

石狩海浜植物保護センター通信

厳寒の石狩浜。ホオジロガモやクロガモ、シノリガモ、カワアイサ、ウミアイサなどのカモ類、シロカモメやカモメなどのカモメ類、オジロワシやオオワシ、時にウミスズメ類など、花の季節にはまず見ることでできない鳥たちを見ることができます。

彼らは、春から夏の繁殖期を北海道よりさらに北のサハリンやシベリアで過ごし、冬をこの地で過ごすのです。

一面の白銀の原野と化したはまなすの丘では、動物たちの足跡を追跡することができ、時に、かけぬける一頭のカキツネに出会います。

雪から枝先がのぞくアキグミやヤナギの周辺には、ノネズミ（エゾヤチネズミでしょうか）の足跡が見つかります。雪の下にトンネルを掘り、アキグミの樹皮や草の実などを食べているようです。カキツネはこのネズミを探して歩き回っているのでしょうか。

よく晴れた日、河口に足をのばして、冬の生きものたちの世界をのぞいてみるのも楽しいですよ。



雪から頭を出したコウボウムギの実。食べるものが少ない季節、こんなものも小鳥やノネズミのえさかもしれません。

お知らせ

石狩海浜植物保護センター冬期学習会

日時：平成16年1月19日（月）10時～12時

場所：石狩市総合福祉センター（石狩市花川北6条1丁目41-1）

りんくる3F 301・302会議室

講師：北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園助教授

（北海道 eco-アガミア） 富士田裕子先生

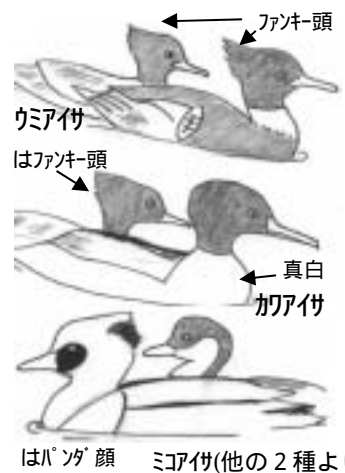
内容：石狩浜や石狩の防風林は、石狩低地帯の原生の面影を残す貴重な自然地域となっています。そこに生きる植物の特性とともに、その自然の現況をお話いただき、保全のあり方について理解を深めていきます。

参加費：無料 どなたでもご自由にお越しください。

主催：石狩海浜植物保護センター・石狩浜夢の木プロジェクト

Watching

石狩でみられるアイサ3種



はアキグミ顔 ミアイサ(他の2種よりまれ)

石狩浜自然観察ハンドブック

平成15年春より、浜の自然情報を一冊にまとめた「石狩浜自然観察ハンドブック」が刊行されています。石狩浜の自然誌を知るにはもってこいの一冊、好評の声を多数いただいています。開館期間中は海浜植物保護センターにて配布。送付希望者は、お問合せください。



A5版 30頁

「平成14年度石狩海浜植物

保護センター活動報告」発行

配布希望者はお問合せください。

問合せ先は本通信最終ページを
ごらん下さい。

小中学校の石狩浜学習

今年も、市内の小中学校の多くの児童・生徒が、海浜植物保護センターで石狩浜学習に取り組みました。浜の自然に親しみ、そこに生きる動植物の生態を知ることによってその大切さを実感するとともに、あわせて浜の環境問題についても学び、できることを考える。これがおもな海浜植物保護センターでの主な学習テーマです。

石狩市立若葉小学校では、夏と秋にはまなすの丘での自然観察学習に取り組みました。また、6年生は、車の走行によって崩壊がすすんでいる砂丘の状況を自分たちの目で確かめました。この学習の成果は、新聞にまとめられるとともに、11月22日の石狩市こども環境会議で発表されました。ここでは、6年生の山本加美乃さん作成の新聞を紹介します。



ススキ=以前に比べて増えている=「帰化植物」と、とらえた子どもたちが多かったようですが、ススキは帰化植物ではなく、もともと浜にある植物です。この10数年間で増えてきて、海浜景観を変えつつあるということの問題として取り上げています。

森や川など、様々なフィールドで環境学習が盛んになっています。石狩浜は、海辺の自然を学ぶのに適した場であるとともに、ゴミ問題、オーバーユースの問題などが目立ち、人と自然との関わりを考えさせられる場でもあります。道央圏の海浜フィールドとして、石狩市外からも、フィールド学習の場として多くの子どもたちが訪れ、考える場となるよう、努めていきたいと思ひます。

ハマニンクですだれづくり

石狩市のこどもエコクラブのひとつ、いしかり KIDS21 から代表2人が、この8月、「こども環境特派員」となって琵琶湖へ行き、いしかり KIDS21 の石狩での活動をPRし、全国の環境活動をする団体と交流してきました。さて、この琵琶湖で KIDS はおもしろいおみやげを携え



すだれづくりのようす

て帰ってきました。そのおみやげとは・・・？

「ヨシ」で編んだすだれです。これを石狩流にアレンジしよう。ハマニンニクで挑戦だ！

ハマニンニクは、むかし、アイヌの人たちがこれでカゴを編んだと言われ、繊維の強い植物です。海浜植物保護センターの見本園では、ハマニンニクが他の海浜植物の生育を妨げるほどに広がり、その刈り取りに四苦八苦しているところです。このハマニンニクを使わない手はありません。さっそく、すだれづくりに向けて見本園のハマニンニクを刈り取り、雨の当たらない場所で十分乾燥させておきました。

これを、適当な長さにそろえて切ったものから、すだれづくりがスタートです。

1. つくりたいすだれの長さにあわせて毛糸を用意します。

(毛糸の長さ = すだれの長さ × 2)

2. 毛糸の両端におもり(くぎを束ねたものなど)を結び、

織り機にかけます。

3. ハマニンニクの茎葉を数本の束にします。

4. 掛けた毛糸を、茎葉を挟むように、前から後、後から前へ掛けていきます。

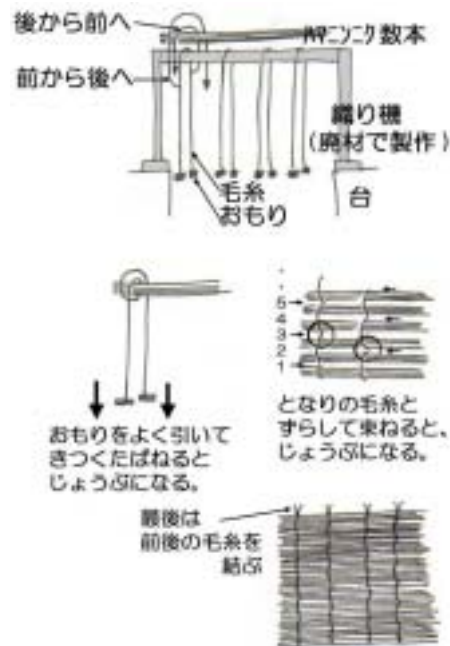
5. 次々とハマニンニクの茎葉を毛糸で束ねていきます。

6. となりの毛糸とは、掛ける回を一回ずらして束ねると、

じょうぶになります。

7. これをくり返して、最後に毛糸を結んで完成です。

KIDS が伝えてくれた「すだれづくり」の技、石狩浜の自然の素材を利用して、みんなで楽しんでいきたいですね。



石狩浜調査報告会より

海浜環境における開花植物と訪花昆虫相の季節変化について

11月5日、今年の5月～10月まで、全22回、延べ75名の協力のもと実施した「海浜環境における開花植物と訪花昆虫相の季節変化について」の調査結果の報告会を行いました(参加者20名)。この結果は、保護センターの展示や読み物の中で紹介していくとともに、詳細は、北海道環境科学研究センターにより、別途まとめられます。

調査に参加したボランティアさんから、感想が届きました！

広い海岸草原の春、夏、秋の季節を通して海を眺めたり、風を感じたりしながらの調査のサポートは、行くたびに何かしら新しいことや新しいものに出会えた楽しい体験でした。

見かけは押しも押されぬオバサンの私ですが、気持ちと眼はまるで昆虫少年のように虫を捕まえることが楽しくてしょうがありませんでした。りっぱな標本になると考えると、夢中になって虫を探しては花をのぞきこんでいました。

また、花のつき方や枝のつき方の違いで、花の数え方も異なり、コマユミ、イボタノキなどの花は、数えるのに苦労しました。

石狩浜の海岸草原で、小さな虫と小さな花が織り成す自然の営みがずっと続くことを願っています。

(石狩市在住 石岡真子)



海岸草原での調査風景

2003.12.10

活動報告

自然観察会

日時: 9月20日(土) 10時~12時30分
場所: はまなすの丘
参加者: 21名 指導: 3名

秋の深まるはまなすの丘での自然観察でした。河口をぐるりとまわるおよそ4kmのコース。この季節のはまなすの丘での自然観察会は、海浜植物保護センターでは初めて。ウンランの花がちょうど見ごろを迎えていました。河口では、ハマシギ(?)などのシギ類も観察できました。

途中、キアゲハの幼虫や、ハマナスにつく虫こぶ「ハマナスメトゲコブフシ」なども見られ、越冬に備える虫たちにも目を向けることができました。



ハマナスメトゲコブフシ(ハマナスの虫こぶ)
本通信 vol.7で紹介



ウツク

石狩浜自然観察会は、植物だけでなく、そこに生きる生き物やその土地そのものにも目を向け、河口の自然誌全体を知っていこうという視点で、地域の自然観察指導員さんらとともに取り組んでいます。

こども自然教室

日時: 10月4日(土) 9時~15時30分
場所: 石狩浜海浜植物保護センター
参加者: こども15名 おとな5名
指導: 3名 補助: 3名

雨空からのスタート。まずは、センター内でネイチャーゲームとクラフトを楽しみ

ました。「海辺の植物カルタ」は、ハマエンドウやハマボウフウなどセンターの周りにある植物の葉や実を使ってのカルタトリ。最後に一つ一つの植物の説明をすると、みんな熱心に聞き入っていました。

雨上がり、いよいよ外へ。3グループに分かれて、海岸草原で実や花、不思議なものなど「自然の宝さがし」や、ブドウづるでのリースづくりに取り組みました。海に出ると、みんな大喜び。改めて、「海そのものの魅力」を実感しました。



センター屋内でのクラフト

もっと時間がほしい、お弁当をもって参加したい、との声もありました。浜の自然を、のんびりと親子で体験するプログラムも取り入れていきたいと思っています。

石狩ふるさと自然塾修了

平成15年10月10日(金) 10時~12時
昨年度から、石狩の自然を知り、伝え、活かしていく人材の育成を目指して石狩市で開講していた「石狩ふるさと自然塾」が修了式を迎えました。2年間全20講中14講以上の出席があった15名に、修了証が授与されました。

今後、修了生有志のみなさんは、「石狩浜夢の木プロジェクト」として自主研修に取り組んでいくとのこと。活躍を期待しています。

.....
行事・講座への参加申込・お問合せ、通信・刊行物に関するご意見、お問合せ等は、下記まで。

冬期閉館期間(11/4~4/28): 〒061-3292 石狩市花川北6条1丁目30-2 石狩市役所内

tel.0133(72)3240 fax.0133(75)2275

開館期間(4/29~11/3): 〒061-3372 石狩市弁天町48-1 tel.0133(60)6107 fax.0133(60)6146

開館時間 9時~17時 休館日: 火曜日(祝日の場合その翌日)

email. ihama@city.ishikari.hokkaido.jp HP: <http://www4.ocn.ne.jp/~ishi-ham/>